



## ナ・デックスレポート

### 第68期 中間報告書

平成29年5月1日～平成29年10月31日

証券コード：7435





ごあいさつ

投資家のみなさまにおかれましては、平素より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに当社第68期第2四半期累計期間(平成29年5月1日から平成29年10月31日まで)の営業状況を報告し、今後の事業展開につきましてご説明させていただきます。ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長 高田 寿之

メーカー機能の強化で高付加価値提供型の企業体へ成長し、グローバルな視点でものづくりに貢献します。

### 最終年度をむかえる 中期経営計画の進捗について

当社グループは、「メーカー」機能の強化・拡大を通じてトータルソリューション提案型の企業体への変革を志向する「NADEX 2025 VISION」を掲げています。その実現に向けた1stステージである現中期3ヶ年経営計画では、新素材に対する工法開発への取り組み、グローバルにおける製造機能の拡充等を行い、「メーカー」機能をバックボーンと

する高付加価値提供型の企業体への変革に向けて舵を切りました。本年は、現中期経営計画の最終年度となりますが、これまでの取り組み・投資が「事業」・「製品」として徐々に形に表れてきております。今後、このメーカーへの進化をさらに加速させるべく、グループ全体最適の視点で組織・機能を横断的に見つめ、グループにおける開発体制の強化、製販開の一体化推進、グローバルでのサポート体制の強化などを行ってまいります。

## 主力事業の高付加価値化に向けて

当社のコアコンピタンスは、抵抗溶接を中心とした接合技術ですが、ものづくりの進化とともに、接合に対するニーズも変化しています。その一つがアルミニウムなど非鉄素材に対する溶接です。近年、当社グループの主要顧客である自動車業界においてはCO<sub>2</sub>排出基準、燃費基準などますます厳格化される環境規制により、車体軽量化のためのアルミ採用が拡大しております。当社では、アルミの高品質溶接をご提供すべく、従来から開発を進めておりましたアルミ用スポット溶接機の市場投入を開始しました。また、昨今、製造業における品質管理が問題となっておりますが、当社ではアルミ溶接にも対応した独自のモニタリングシステムによる品質管理ソリューションの開発も進めており、これらを統合させた溶接に関わるトータルソリューションとしてご提案することにより、今後もお客さまのものづくりに貢献してまいります。

## 成長市場に対する戦略的投資について

当社では、より一層のマーケットの拡大を図るため、成長市場への投資を継続しております。その一環として、「日本品質を海外でも！」プロジェクトを始動させ、自動車成長市場であるメキシコ・インドネシアにもものづくり拠点を設立しております。平成25年にはメキシコに「NADEX

MEXICANA, S.A. de C.V.」を設立しておりましたが、平成29年にはインドネシア・チカランに設立した「PT. NADESCO ENGINEERING INDONESIA」も本格稼働を開始しました。その品質の高さにより数多くの現地日系メーカーなどからご好評をいただいております。今後につきましても、グローバル視点で市場の動向を見極め、必要な投資を行っていく所存です。

## 次期3ヶ年に向けて

現在、来期より始まる新中期経営計画について最終調整段階に入っております。当社グループは現中期経営計画にて強化したメーカーとしての機能・技術シーズをもとにこれまで以上にソリューション力を発揮して、お客さまの課題解決に取り組んでまいります。それと同時に、社員・取引先・投資家のみなさま・社会にご安心いただける企業グループとなるべく、経営の質をより一層高めるための経営基盤・グループ組織体制の強化を図ってまいります所存です。

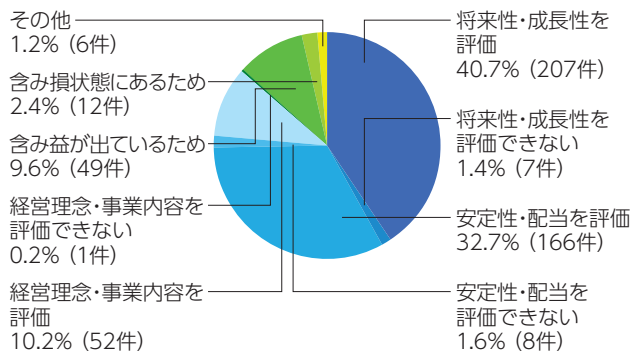
先般の株主さまアンケートにおいては、多くの株主さまにご協力いただきまして誠にありがとうございました。今回のアンケート結果をもとに投資家のみなさまのご期待に応え、当社グループの企業価値向上につながるよう取り組んでまいりますので、投資家のみなさまにおかれましては、引き続き格別のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 株主さまアンケート結果のご報告

当社は単元以上株主さま1,507名に対して平成29年7月25日から8月25日の間に決議通知に同封する形でのアンケートを実施しました。同期間に対象株主さまの23.6%にあたる356名よりご回答をいただきました。一般的には10%前後の回答率であることからすると、非常に高い水準の回答率となり、ご協力をいただいた株主のみなさまに御礼申し上げますとともに、集計結果の一部をご報告させていただきます。

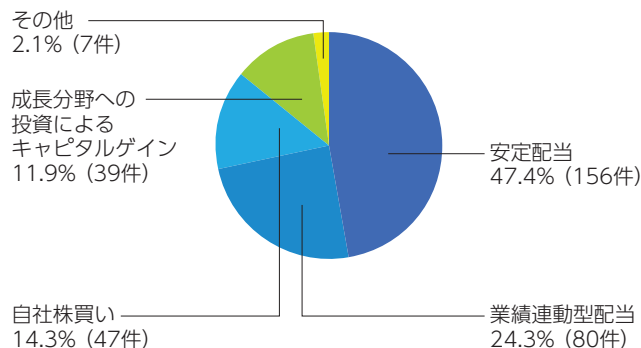
## 設問に対するご回答

### Q 保有方針の選択理由は。(複数回答)



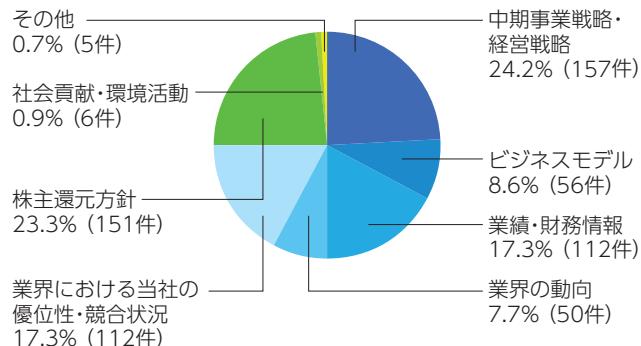
小計 508件 無効回答 5件

### Q 当社の株主還元策について最も期待することは。(複数回答)



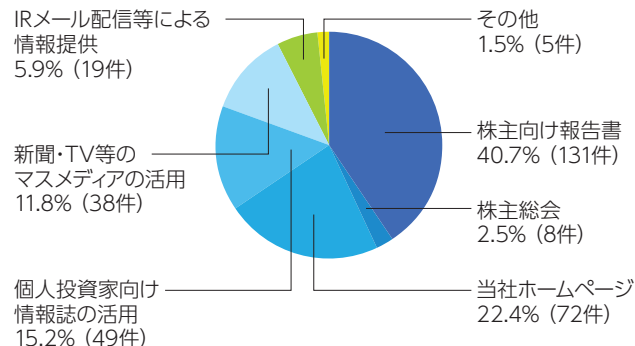
小計 329件 無効回答 27件

### Q 当社に関してもっと知りたい情報は。(複数回答)



小計 649件 無効回答 15件

### Q 今後のIR活動について、特に充実を希望することは。(複数回答)



小計 322件 無効回答 34件

## 株主さまの属性についての結果

### 地域別

三大都市圏（関東、近畿、中部）で約9割、地元「愛知」は約2割を占めました。本アンケート結果は、株主名簿分布状況に近似した形で満遍なくご回答をいただきました。

### 世代別

60代以上の回答率が約6割となり、調査会社平均とほぼ同率といえます。

### 保有株式数別

10単元以上（1,000株）の株主さまからの回答率が5割を超えております。また、全株主さまの保有株数分布と比較して株主名簿分布状況に近似した形で満遍なくご回答をいただきました。

### 保有期間別

1年未満の株主さまの回答率が4割程度と、比較的直近に保有していただいた株主さまからの回答率が高くなっています。

## 広報・IR室より

今回のアンケートでは予想を超えて大勢の株主のみなさまからご回答いただき、改めて当社への関心の高さをを感じるものとなりました。

前期の好調な業績に加え、増配したことなどにより比較的好意的なご意見をお寄せいただきました一方で、株主のみなさまに提供する情報については、質・量ともに拡充を望まれる声が多く届きました。なかでも年2回株主のみなさまにお届けする「ナ・デックスレポート」の、より一層の充実を要望される声が多く、広報・IR室としてもこの点を重く受けとめております。

このような株主のみなさまからのご要望にお応えするべく、第一弾としてこれまでと紙面構成を変えて新たに子会社紹介のコーナーを設けました。これまで具体的にご紹

介することのなかった子会社についても定期的のみなさまにお伝えすることで当社グループへのご理解を深めていただければ幸いです。

株主のみなさまの関心の高い各テーマにつきましては、例えば中期事業戦略・経営戦略は、中期経営計画最終年の今年、鋭意作成中であります。また配当政策につきましても、みなさまの貴重なご意見を参考に新たな配当政策の策定取組みを行ってまいります。

このほかにも、ご評価いただいた点、ご要望いただいた点、株主のみなさまからのご意見を、今後も反映していけるよう、努めてまいります。



## 「Private Show」へご招待

今回のアンケートでは、技術センターの見学会等、当社の技術について知りたいという声が多く寄せられました。そこで、株主のみなさまのご要望にお応えすべく、毎年11月に開催している「Private Show」へ、来年度より株主のみなさまをご招待することを企画いたしております。詳細につきましては、改めて株主のみなさまへお知らせいたします。



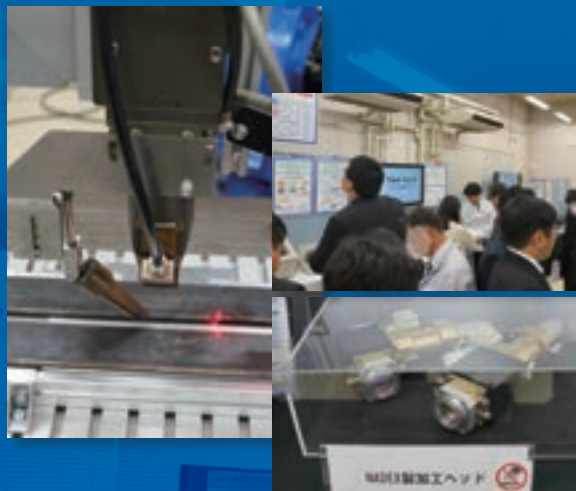
# NADEX Private Show 2017開催

## テーマ▶ スポットの進化とレーザー加工技術の最前線

今回の「NADEX Private Show 2017」は、「スポットの進化とレーザー加工技術の最前線」をメインテーマに開催しました。会場には「スポット溶接ゾーン」・「レーザー加工ゾーン」・「ITゾーン」・「FAゾーン」の4つのゾーンを設け、当社が提供するソリューションを紹介、前回に続き大勢の方々にご来場いただきました。

中でも加圧制御によりアルミの高品質溶接が可能な溶接機や、製品の良否判定が行えるモニタリングシステムなどに大きな関心を寄せていただいております。

他にも、レーザー加工技術やIoTをテーマにした当社の取り組みや技術動向などをお伝えするセミナーも大変ご好評をいただき、盛況のうちに終了いたしました。



### スポット溶接ゾーン

「アルミスポットからトレーサビリティシステムまで」と題し、高品質アルミ溶接システムや、モニタリング結果を設備や車種情報と紐付できるトレーサビリティシステムなどをご紹介します。

### レーザー加工ゾーン

「NADEXレーザー加工技術と最新機器の融合」と題し、キーホール溶接プロセスの最新監視技術の実演や、NADEXレーザーR&Dセンターの研究結果などをご紹介します。

### ITゾーン

「製造現場のIoTソリューション」と題し、製造現場の見える化を実現する、当社開発の製造現場管理システムなどをご紹介します。

### FAゾーン

「異材接合の新工法提案」と題し、アルミニウムとスチールの接合ソリューションなどをご紹介します。

### 今後の出展予定

#### 2018国際ウエルディングショー

(平成30年4月25日(水)-28日(土))@東京ビッグサイト

#### NADEX Private Show 2018

(平成30年11月(予定))@当社技術センター

その他、出展状況については順次当社ホームページに掲載してまいります。

今後もPrivate Showや展示会を通じて、お客さまのお困りごとに対して最適なソリューションをご提案してまいります。また、ホームページ「営業新情報」においても、最新ソリューションを順次ご紹介しております。あわせてご覧ください。

<http://www.nadex.co.jp/>



# WELDING TECHNOLOGY CORP.



アメリカ合衆国ミシガン州南東部の工業都市デトロイト。「モーターシティ」と呼ばれるこの街の近郊、ファーマントン・ヒルズに当社の北米子会社WELDING TECHNOLOGY CORP. (以下、「WTC」)がある。

WTCは、もともと北米展開のパートナーとして当社と提携関係にあったが、平成25年、それまでの提携関係を更に前進させ、当社の完全子会社となった。この目的は、営業・技術・生産の各分野において当社との事業の一体化を進めることで、両社が注力する自動車関連分野を中心に一層の相乗効果の発揮と当社グループのグローバル展開加速の一端をWTCが担うというものであった。当社グループの一員となったWTCは、自動車業界を中心として、北米地域はもちろん、中国の欧米系メーカーに対しても自社の製品をおさめており、堅実な経営のもと収益性の高い事業を展開している。

WTCの強みは、「RAFT」と呼ばれる独自の適応制御技術により電流量をコントロールし、溶接品質を高めると

ころにある。この技術が導入されたWTCの抵抗溶接制御装置は主要な米系自動車メーカーにおいて採用いただいている。また、近年の環境規制に伴うハイテン(薄くても強い鋼材)、アルミなど軽量素材の溶接ニーズに対してもWTCは大容量モデルの抵抗溶接制御装置を投入し、そのニーズにお応えしている。

現在、WTCは当社と連携したグローバル製品開発体制の強化を今後の取組課題とし、これに取り組んでいる。



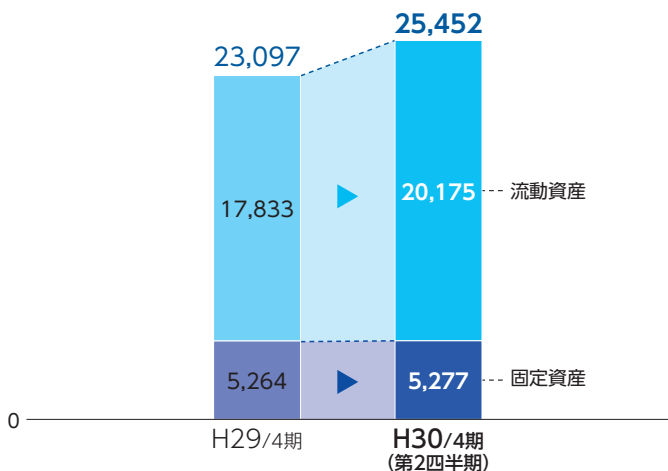
## Company Profile



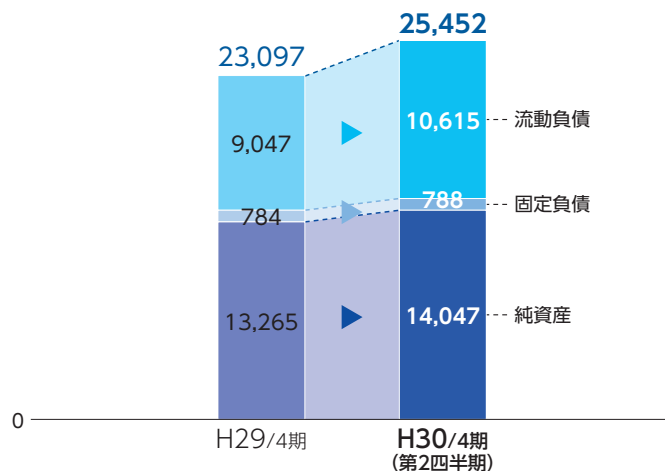
企業名 WELDING TECHNOLOGY CORP.  
所在地 24775 Crestview Court Farmington Hills,  
MI 48335 U.S.A.  
資本金 150,000米ドル  
従業員数 105名

■ 四半期連結貸借対照表(要約) (単位: 百万円)

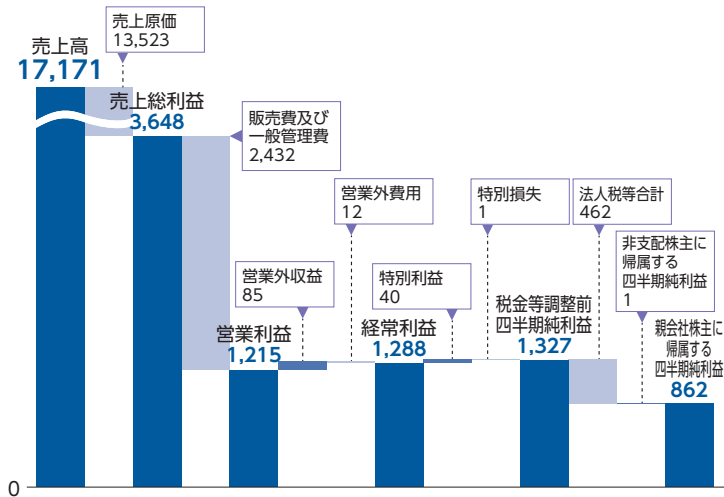
資産の部



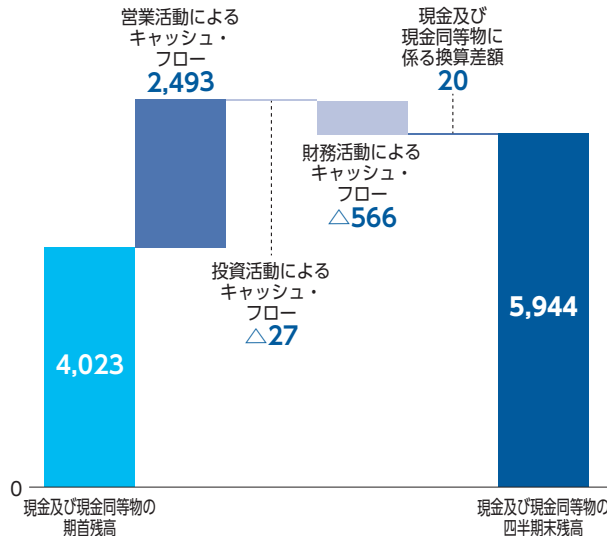
負債・純資産の部



■ 四半期連結損益計算書(要約) (単位: 百万円)



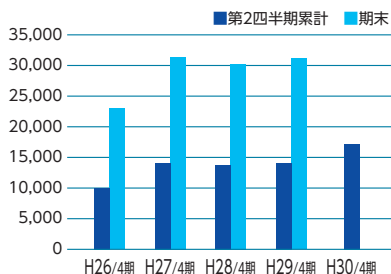
■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位: 百万円)





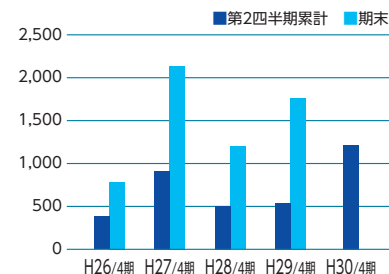
## 売上高

(単位：百万円)



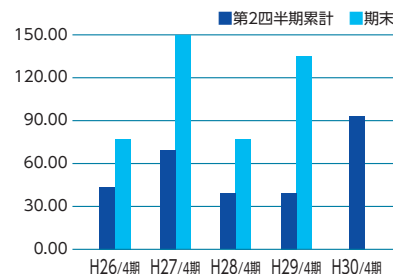
## 営業利益

(単位：百万円)



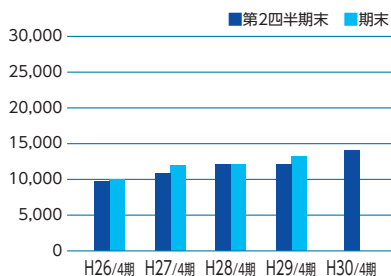
## 1株当たり四半期(当期)純利益

(単位：円)



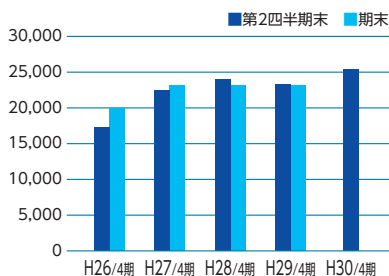
## 純資産

(単位：百万円)



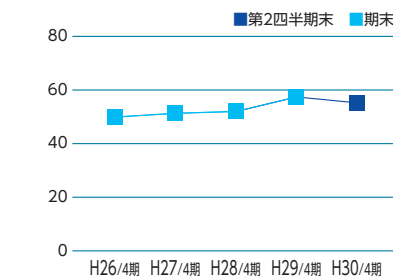
## 総資産

(単位：百万円)



## 自己資本比率

(単位：%)



## 株主還元方針に関する考え方

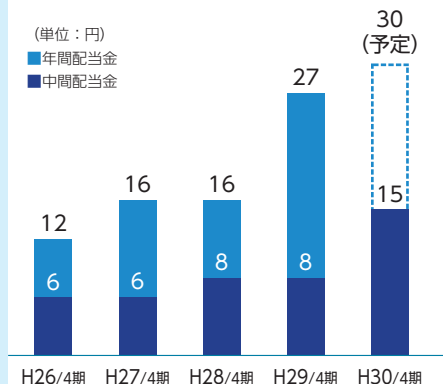
当社の利益配分についての基本的な考え方は、1株当たり配当金を年10円とし、株主への安定的な利益還元を行いつつそれをより高めるとともに、経営基盤、企業体質の強化を図るため、中・長期的見通しに基づき内部留保を厚くして株主資本を充実させることにあると考えております。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

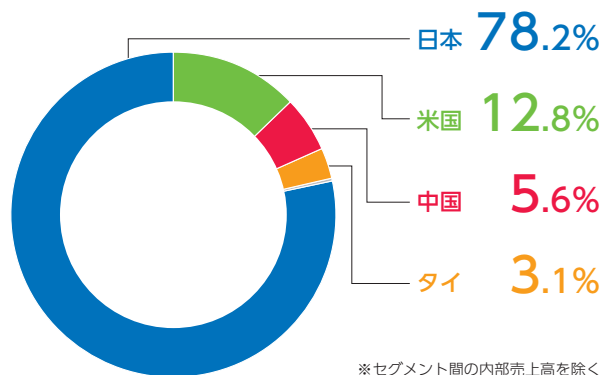
当事業年度の配当金につきましては、上記基本方針をふまえて、当事業年度の業績を勘案して、1株につき30円(うち中間配当15円)の配当とする予定であります。

## 配当金の推移

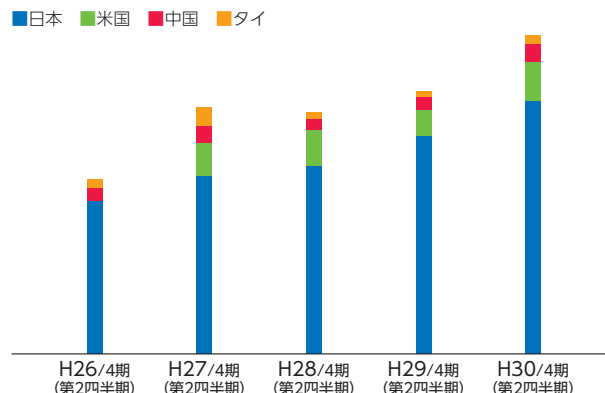
(単位：円)  
■年間配当金  
■中間配当金



地域別売上高構成比



地域別売上高推移



日本

売上高 143.7億円  
営業利益 7.0億円

日本につきましては、自動車関連企業向け設備を中心に販売が増加したこと、また海外からの商品仕入が為替の変動により減少したことなどにより、売上高は143億7千4百万円と前年同四半期に比べ20億1千7百万円(16.3%)の増収となり、営業利益は7億1百万円と前年同四半期に比べ3億8千9百万円(125.0%)の増益となりました。

米国

売上高 22.3億円  
営業利益 4.1億円

米国につきましては、自動車関連企業向け自社製品の販売が増加したことなどにより、売上高は22億3千9百万円と前年同四半期に比べ6億4千4百万円(40.4%)の増収となり、営業利益は4億1千4百万円と前年同四半期に比べ2億1千1百万円(104.0%)の増益となりました。

中国

売上高 10.1億円  
営業利益 0.4億円

中国につきましては、新規市場の開拓により自動車関連企業向け自社製品の販売が増加いたしましたが、販売費及び一般管理費が増加したことなどにより、売上高は10億1千3百万円と前年同四半期に比べ2億1千1百万円(26.4%)の増収となり、営業利益は4千4百万円と前年同四半期に比べ1千万円(△19.5%)の減益となりました。

タイ

売上高 5.4億円  
営業利益 0.3億円

タイにつきましては、景気の回復には今しばらく時間を要する見込みではありますが、自動車関連企業向け設備の据付が増加したことなどにより、売上高は5億4千1百万円と前年同四半期に比べ1億9千7百万円(57.4%)の増収となり、営業利益は3千万円と前年同四半期に比べ7百万円(31.9%)の増益となりました。

## 会社概要

商号	株式会社ナ・デックス (英文名/NADEX CO.,LTD.)
本店所在地	名古屋市中区古渡町9番27号 TEL (052) 323-2211
設立	昭和25年10月
資本金	1,028,078千円
従業員数	569名 (連結)、203名 (単体)

## 役員

代表取締役社長	高田 寿之
専務取締役	渡邊 修
取締役	古川 雅隆
取締役	横地 克典
取締役	進藤 大資
取締役	本田 信之
取締役	野口 葉子
常任監査役 (常勤)	武田 吉保
監査役	伊藤 豊彦
監査役	市原 裕也

(注1) 取締役野口葉子氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
(注2) 監査役伊藤豊彦氏および市原裕也氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

## 拠点

### 国内 株式会社ナ・デックス

本社：名古屋市中区  
 東京支店：さいたま市大宮区  
 大阪支店：大阪市淀川区  
 技術センター：愛知県北名古屋市  
**株式会社ナ・デックスプロダクツ**：岐阜県可児市、福井県敦賀市  
**その他の拠点**：横浜、福井、浜松、四日市、京都、尼崎、岡山、広島、北九州

海外 米国	ミシガン州
カナダ	オンタリオ州
メキシコ	ケレタロ州
中国	上海、広州、天津、武漢、杭州
タイ	バンコク
インドネシア	チカラ

## 株式の状況

発行可能株式総数	40,125,000株
発行済株式の総数	9,605,800株 (自己株式382,834株を含む)
株主数	1,407名

## 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アート・ギャラリー富士見	1,400,000	15.17
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	833,100	9.03
古川 美智子	285,600	3.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	280,500	3.04
古川 佳明	252,000	2.73
古川 雅隆	212,546	2.30
ナ・デックス社員持株会	211,400	2.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	170,300	1.84
株式会社三井住友銀行	152,000	1.64
尾崎 博明	144,000	1.56

(注) 持株比率は、自己株式(382,834株)を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。



ナ・デックス 本社



ナ・デックス  
プロダクツ



ナ・デックス  
技術センター



WELDING TECHNOLOGY  
CORP.



那電久寿機器(上海)  
有限公司



NADEX ENGINEERING  
CO.,LTD.